

学位論文の要旨 (論文の内容の要旨)  
Summary of the Dissertation (Summary of Dissertation Contents)

論文題目  
Dissertation title

地域の交通政策におけるコミュニケーション技術の構築とその効果

広島大学大学院国際協力研究科  
Graduate School for International Development and Cooperation,  
Hiroshima University

博士課程後期 開発科学専攻  
Doctoral Program Division of Development Science

学生番号 D154542

Student ID No.

氏名 福井 のり子

Name

□

Seal

社会環境が急速かつ複雑に変化する中、こうした環境の変化に適応するためには行政主導のコントロールに基づく社会ではなく、それぞれのフィールドにおいて個人や組織が自ら考え、学習し、行動することの重要性が高まっており、これは交通政策においても当てはまる。本研究では、地域の交通を取り巻く環境の変化や社会的要請に対して、i) 社会、ii) コミュニティ、iii) 家族という、3種類のフィールドにおける交通政策上の課題を取り上げ、コミュニケーションの対象をシステムとして捉えて、システムに介入するコミュニケーション技術を構築することを目的とする。システムとは、例えば生物の細胞や植生のように、相互に作用し合う動的な要素の集合のことである。そこでは各要素のみに着目するのではなく、相互作用を行う要素を全体として捉えることが求められる。本研究では、このシステム思考の考え方を応用し、実証的な取り組みやデータをもとに交通政策における介入的なコミュニケーション技術の構築を行う。

本論文は6章で構成される。

第1章では、本研究の背景として交通を取り巻く環境や、交通政策におけるコミュニケーション技術、システムの概要を述べて、本研究の目的について述べた。

第2章では、交通政策におけるコミュニケーション技術の進展に関する既往研究、およびコミュニケーション技術の理論的背景に関する既往研究を整理した上で、本研究の位置づけと論文の構成、本研究で扱うコミュニケーション技術の定義について明確にしている。

以降、第3章から第5章において、i) 社会、ii) コミュニティ、iii) 家族の3つのフィールドにおけるコミュニケーション技術の構築を行う。

まず第3章では、「社会」をフィールドとし、同一の空間に関わる不特定多数の主体を対象にシステムを新たに形成、維持するコミュニケーション技術の構築を行う。具体的には、道路整備の事業段階（工事期間中）の観光地を対象に、事業段階の合意形成と来訪者の観光行動の変容を図ることを目的に、コミュニケーションツールとしてのオープンハウスを現地に継続的に設置し、関連する行政の介入やその中でオープンハウスが果たした役割について、その効果を検証した。この結果、システムにおいて行政のセクションや立場を超えたマネジメントとこれを支えるコンサルタント、また各主体を現場でつなぐオープンハウスの両者が機能したことが確認された。

続いて第4章では、農村地域の「コミュニティ」をフィールドとし、交通を切り口に行政が2ヵ年に渡って介入的なコミュニケーションを行い、コミュニティ・エンパワメントを図った取り組みを取り上げ、その効果を検証した。この結果、行政の介入においては、1) 信頼の形成、2) 見守り、3) 自立の促進、といった段階的なコミュニケーションが行われていたこと、これが実現した背景として、特に1) および2) の段階を通じて、行政職員もコミュニティ内に形成したシステムの構成員となったことが効果的であったことを明らかとした。

第5章では、コミュニティの基本単位である「家族」を対象とした。高齢ドライバーの運転継続・取り止めについて効果的な家族への介入手法に向けた示唆を得ることを目的に、約500サンプルに及ぶ高齢者（またはその家族）を対象としたヒアリング調査から、世帯内での意思決定においてどのような内容の話し合いを行うことが有効かを検証し、また効果的なコミュニケーションを行った場合の効果についてシミュレーション分析を行った。この結果、家族が送迎することを増やすことを家族が話した場合に、世帯としての意向が家族の意向に傾くことなどが明らかとなった。

最後に第6章では、以上の各フィールドにおけるコミュニケーション技術の検証結果を総括し、各システムの特徴とシステムに働きかけるコミュニケーション技術を整理するとともに、このようなシステム思考に基づくコミュニケーションの可能性や有用性について考察を行った。

備考 論文の要旨はA4判用紙を使用し、4,000字以内とする。ただし、英文の場合は1,500語以内とする。

Remark: The summary of the dissertation should be written on A4-size pages and should not exceed 4,000 Japanese characters. When written in English, it should not exceed 1,500 words.